

雲南市 校務DX計画

雲南市は、文部科学省の示す校務 DX の在り方に合わせて、学校におけるFAXでのやり取りや押印の原則廃止を促すとともに、グループウェア「デスクネッツ」による連絡の迅速化やペーパーレスの推進、及び Microsoft Teams 等を活用した児童生徒との連絡、教職員間の情報共有による校務の効率化を進めてきた。

また、教職員が校務に費やす時間と労力を削減するためには、不合理な手入力作業の一掃に取り組む必要性があったことから、クラウド環境による統合型校務支援システムの導入に向け取り組んできた。この校務支援システムは、令和5年1月に仮稼働、令和5年4月から本稼働の運びとなり、これにより児童生徒データや教職員データ、こどもたちの支援の記録や指導の記録などを安全に管理し、統合的な利用が実現することとなった。また、帳票や様式等を共通化することで業務の標準化、業務改善を図り、教職員の業務負担の軽減及び教育の質的向上を図っていくことが可能となっている。

今後の課題としては、操作研修の実施やヘルプデスクの活用等を促進しながら、教職員がシステムの機能をフルに活用できる環境を構築していくことが挙げられる。

【次世代校務デジタル化への課題】

雲南市は、令和5年度から校務支援システム(スマート校務)の運用を開始したが、文部科学省が提唱する次世代校務デジタル化へはいくつかの課題がある。

- ・校務系と学習系のネットワーク統合(令和7年度統合予定)
- ・現状プライベートクラウドでの運用となっており、今後の更新においてセキュリティ対策に合わせて費用面に課題がある。
- ・教員用端末の1台化、ロケーションフリー等の環境整備による校務処理(令和7年度対応予定)
- ・ゼロトラストの概念に基づいたセキュリティ対策の構築(令和7年度対応予定)
- ・ダッシュボード整備、データ連携

に向けた取組が必要であるという認識のもと、次世代に向けた学校現場の最適なネットワークシステムの構築及び状況に合わせた校務のデジタル化を推進していく。